



全保連株式会社 迫幸治社長インタビュー

熱き戦いで観客を魅了する 琉球ゴールデンキングス

熾烈な戦いが繰り広げられたBリーグ2017-18シーズン。中でも、新体制で大きな注目を集めた琉球ゴールデンキングス。トップオフィシャルパートナーとして共に歩んできた全保連の迫社長に、キングスへの思いを語ってもらった。



全保連株式会社
代表取締役社長
迫 幸治

“現状に感謝し
満足しない”

キングス創成期〜現在
栄光への道のり

2016年に開幕し、日本男子プロバスケットボールの歴史に大きな変革をもたらしたBリーグ。初年度以上の盛り上がりを見せたこの2017-18シーズンも、いよいよ終盤。琉球ゴールデンキングスは熱戦に次ぐ熱戦で、見事西地区優勝を果たした。キングスは沖縄ならではの会場演出で、県外からもファンが押し寄せるほど人気が高まっているが、立ち上げ当初の2007-08シーズン（bリーグ）は最下位。決して最初から順風満帆だったわけではない。迫社長は当時についてこう語る。

「キングスの創成期に球団の木村（達郎）社長と語り合ったんです。『応援があればチームはもつと強くなる』と熱く話すその姿に胸を打たれました。沖縄を拠点とする我々もその頃、県外に事業を展開して日々戦っ

ていたので、必死にトップを目指すキングスと思いが重なったのです。チームの創設2年目から本格的に応援し始め、その年に見事優勝。前年の最下位からいきなり優勝なんて誰が想像できますか？すぐに結果を出したキングスに、当時は大変勇気づけられましたね」

沖縄を元気にする キングスの存在

地元沖縄に根ざし、スポーツを通じた地域貢献に力を注ぐ全保連。迫社長が以前から親交のある具志堅用高氏との縁をきっかけにサポートした比嘉大吾選手をはじめ、女子サッカーチームの全保連琉球デイゴスなど、沖縄ゆかりのスポーツ選手を支える喜びを語る迫社長の「座右の銘」とは。

「現状に感謝し、満足しない」

それは企業の精神でありながら、シビアナスポーツの世界を生き抜く選手たちにも通ずることなのかもしれない。迫社長はさらにこう続ける。

「夢を実現してくれる彼らを見てみると応援したくなる。スポーツには人に感動を与えるパワーがあります」

迫社長をはじめ、多くの人々の希望や思いがキングスには込められている。互いにしのぎを削り、切磋琢磨しながら頂点を目指す彼らの勇姿が、この先もきっと、沖縄を元気にしてくれるに違いない。